

「これからの滋賀県立図書館のあり方」行動計画 令和元年度の取組に対する自己評価一覧表

重点的な取組項目	令和元年度取組状況	課題・今後の方針	数値指標	目標値 (令和元年度)	実績	達成率	自己評価
1. 全ての県民へ向けたサービスの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・協力貸出(31,574冊 うち購入1,135冊) ・所蔵館紹介(512件 うち県外494冊) ・協レファレンス(52件) ・メールによるレファレンス(86件) ・デジタルアーカイブによる所蔵貴重資料の公開(特集3回) ・障害者サービス用資料の整備(大活字本32冊 録音図書38点 DAISY図書1点 マルチメディアDAISY17点) ・読書支援機器の広報(HPに掲載) ・マルチメディアDAISY図書の広報(研修会等での展示・啓発 6回) ・配布用外国語利用案内(中国語・ポルトガル語)の作成、県国際協会に配布 ・外国語資料整備(177冊) ・雑誌コーナーソファの配置改善 ・文化ゾーン施設等連携事業(3回) ・県民への活動の場の提供(土曜サロン6回 パネル展示2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民に確実に図書館資料を提供するために、市町立図書館からの貸出依頼には迅速に対応するとともに、未所蔵資料については購入での対応を基本とし、所蔵館紹介を合わせながら必ず提供を行っていく。 ・市町立図書館からのレファレンスについて1週間以内の迅速な回答に努める。 ・読書バリアフリー法の施行を受けた、国の計画策定・県の計画策定の後、県の基本計画に基づいた当館サービス計画を作成する。 ・作成した外国語利用案内や所蔵資料リストの配布などにより、外国語を母語とする人々への情報発信に努める。 ・文化ゾーン連携事業・県民活動の発表の場の提供について引き続き実施するとともに広報にも努める。 	県内公立図書館の県民一人当たり貸出し冊数	7.84冊	7.72冊	98.5% △	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれの指標も達成には至らなかった。 ・ホームページのアクセス件数は前年度比98%であるが、蔵書検索回数は同103%となっている。 ・また、来館者総数は前年度比96%であったが、イベント等集会活動に関しては、「子どもの本まつり」など新しい取り組みもあり同113%となった。 ・今後も魅力ある資料の整備や様々なイベント等の取組を進め、それらを発信することによって図書館利用につなげていく。
			県内公共図書館への協力貸出し冊数	33,500冊	31,574冊	94.3% △	
			図書館ホームページアクセス件数	385,000件	341,088件	88.6% △	
			県立図書館来館者数	242,500人	217,928人	89.9% △	
2. 県内各図書館の人・資料・情報をつなぐネットワークの整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・協力車による司書の巡回(各拠点館6回 各地域館2回) ・司書巡回における担当制の実施 ・図書館職員向け研修の開催(5講座 参加者延べ371名) ・県公共図書館協議会における障害者サービスに関する事例研究(参加者22名) ・市町立図書館との職員交流研修(2自治体 各8日) ・市町立図書館協議会への委員派遣(1回) ・大学図書館との共催による研修実施(滋賀医科大学 1回) ・大学図書館連絡会への参加(1回) ・県外図書館との相互貸借(貸出1,405冊 借受344冊) ・国立国会図書館へのレファレンス事例提供(31件) ・国立国会図書館への調べ方案内提供(59件) ・中国湖南省図書館との資料交換(85冊送付、89冊受取) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内各図書館の状況について、担当チーム制で巡回して収集した情報のチーム内のみならずチーム間での共有を図る。 ・引き続き県立図書館主催の研修の満足度を高めるとともに、県と市町間での職員の交流研修を実施する。 ・全国的なレファレンス業務の向上と県の情報の発信にもつながるレファレンス事例の国立国会図書館への提供を積極的に実施する。 	県立図書館職員が訪問した市町立図書館の延べ館数	188館	188館	100.0% ○	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの指標ともに目標値を達成できた。 ・市町立図書館職員との交流に関しては、相互交流研修などを活用し、お互いの現場の理解を深めていくことが重要である。 ・資料提供に関しては、図書資料やレファレンス回答の迅速な提供とならんで、図書館運営に関する様々な情報の提供も行い、満足度を高めていくことが重要である。
			県立図書館による資料提供に対する市町立図書館の満足度	85%	94.5%	111.2% ○	
3. 地域の課題解決に向けた情報提供・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・産業育成のための基盤整備事業による工学・ビジネス関連図書整備(880冊) ・県施策等に関連した館内図書展示(10回) ・県の施策や各部署の取組を紹介するパネル展示(10回) ・県機関主催セミナー等への出張展示(12回) ・県機関への図書貸出(5機関 1,588冊) 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料展やパスファインダーによる情報発信・広報に積極的に取り組むことで、潜在的な需要を掘り起こし、県民への資料や情報の提供を促進する。 ・県民の学びを深める機会の提供および当館資料を広く知ってもらうため、引き続き県および関係機関主催のセミナー等への出張展示を行う。 ・全県的な課題に対応した図書館資料の収集に努める。令和2年度は「滋賀の森づくり図書整備事業」により県の森林政策の理解への寄与を図る。 ・県政の課題解決支援のために、県機関への資料の貸出やレファレンスを引き続き実施する。 	県関係部局との連携展示回数	26回	22回	84.6% △	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末にセミナー等の中止が相次ぎ、最終的には目標回数には至らなかった。 ・今後も情報収集に努め、県庁内の各所属の動きをとらえながら、タイムリーに連携展示を行っていく。

達成率については、実績/目標値を○△で評価
 ○100%以上
 △100%未満

重点的な取組項目	令和元年度取組状況	課題・今後の方針	数値指標	目標値 (令和元年度)	実績	達成率	自己評価
4. 子どもの読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧・貸出用児童資料の整備(3,611冊) ・児童室の配架改善(テーマ展示コーナー、表紙見せスペースの増加) ・研究・選定用資料の整備(1,259冊) ・児童研究室を研究・選定に利用できるようレイアウト改善 ・児童書新刊紹介「ひとつっこ」リニューアル(研究・選定用資料リストの掲載を開始) ・研究・選定用資料の展示会(出張展示含む)(24回) ・県機関主催の講座等への講師等派遣(のべ21名)、図書資料提供(12回) ・学校図書館支援用図書の貸出(20件 978冊) ・学校図書館活用支援のための職員派遣(16校 65回) ・県内高等学校図書館の団体貸出登録(新規34校 累計42校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童書の全点購入による閲覧・貸出用資料の整備に努める。 ・「子どもの読書にかかわる人々への支援事業」において、研究・選定用資料の整備や展示等広報に努めるとともに、事業内容や実績をホームページ等に明示することで事業の「見える化」を図り、さらなる活用を促す。 ・学校図書館への支援については、「学校図書館を活用した楽しむ読書推進事業」において引き続き学校図書館のリニューアルや運営改善の支援を行うとともに、学校図書館支援用図書の広報に努め、利用の促進を図る。 	県内公立図書館の児童図書貸出し冊数(12歳以下の県民一人当たり)	24.4冊	24.4冊	100.0% ○	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの指標ともに目標値を達成できた。 ・子どもの読書活動推進関連の新事業については、優先的に取り組んだ結果、学校図書館支援用図書の貸出し冊数・校数は増加し、研究・選定用資料の利用も事業目標を上回るなど高い実績を上げることができた。 ・学校図書館支援事業は対象校からは好評を得ているが、事業終了後を見据え、市町教委や図書館への働きかけを通じて、事業成果を各市町へ浸透させていく必要がある。
			学校図書館支援用図書の貸出し冊数	490冊	978冊	199.6% ○	
5. 図書館サービスについての情報発信・周知	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館書庫探検3回(うち文化ゾーン連携2回) ・ウェブサイトによる情報発信(112件) ・メールマガジンによる新着図書や行事の案内(新着図書1回/週 行事案内6回) ・経済産業関係団体や大学図書館に向けたビジネス・産業分野の新着図書案内メール(1回/月) ・行事等の報道機関への資料提供(16回) ・県政広報等を通じた行事等の広報(15回 25件) ・メディアへの掲載・放送等(新聞9回 TV2回 ラジオ2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館の資料やサービスの周知のため、引き続き様々な媒体を利用した情報発信に取り組む。 	報道機関等への資料提供回数	24回	16回	66.7% △	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末にイベント等の中止が相次ぎ、最終的には目標回数に達しなかったが、積極的に資料提供に努めた結果、メディアに取り上げられた回数は前年度より多かった。
6. 図書館サービスを支えるための基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・館の蔵書構成方針の改訂 ・滋賀資料・水資料をはじめ、専門書や学術書を重視した図書整備(滋賀資料767冊・水資料296冊・参考図書566冊 行政資料1,701冊) ・市町立図書館からの移管図書受入(1,639冊 164誌) ・職員の外部研修への参加(のべ53名) ・館内職員研修の実施(2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の地の拠点となる資料整備のため、引き続き全権的な利用を考慮した資料の整備に努める。 ・地下書庫の収容限界までの期間を延ばすため、資料配置の変更や棚割りの見直しを通じて、余剰スペースの確保に努める。 ・司書の専門性の向上を継続的に図るため、職員の外部研修の機会の確保に努める。 	年間受入冊数	20,150冊	23,438冊	116.3% ○	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの指標とも目標を上回った。 ・前年度に引き続き、特に滋賀資料・水資料については、非市販資料の入手に努めた。 ・職員の研修についても可能な限り受講する体制をとれた。 ・質の高い図書館サービスの提供のために、さらに職員の資質と蔵書の充実を図っていく。
			県立図書館職員が研修に参加した延べ人数	36人	53人	147.2% ○	

達成率については、実績/目標値を○△で評価
○100%以上
△100%未満